

特集展示

懷徳堂記念会創立100周年記念

懷徳堂展

～大阪“知”の源流～

大阪歴史博物館
Osaka Museum of History

大阪大学

財団法人
懷徳堂記念会

平成22年10月27日(水)～12月20日(月) 火曜日休館 ただし、11月23日(火・祝)は開館、11月24日(水)は休館

江戸時代の後半約140年にわたり、大阪の学問所として君臨した「懷徳堂」。その顕彰と復興を目的として、明治43年（1910）に懷徳堂記念会が設立されました。

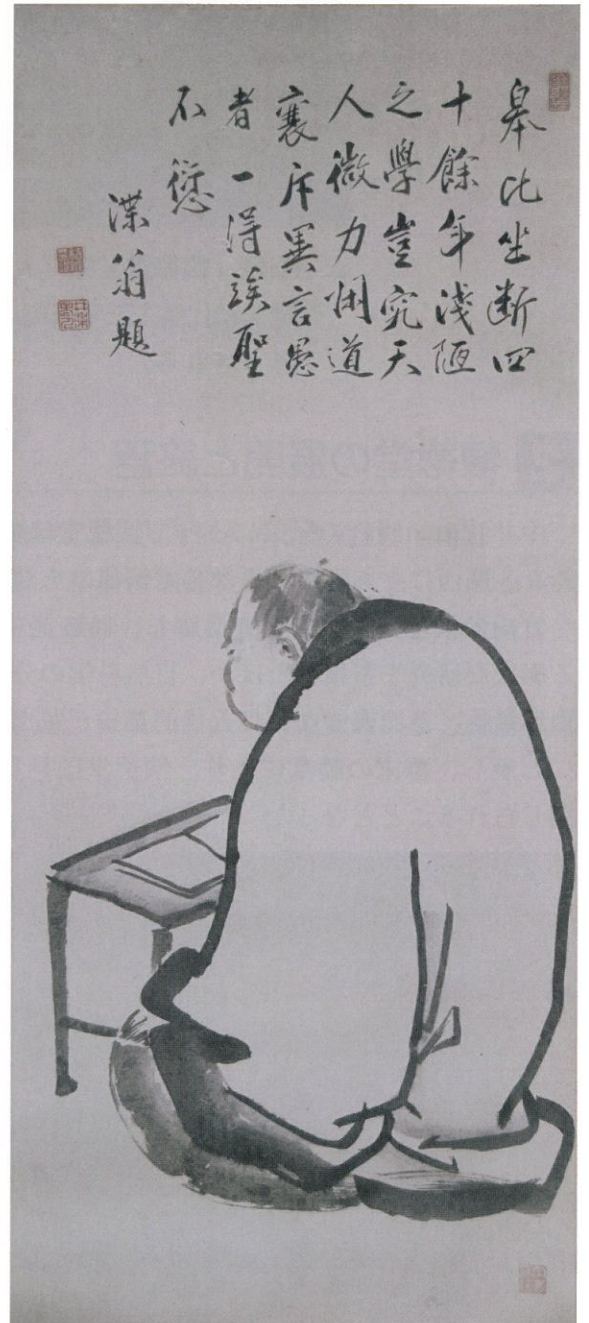
記念会は、政財界の支援を得て、懷徳堂の復興を果たし、江戸時代の貴重資料を継承するとともに、大阪の市民大学として親しまれました。

本年、平成22年（2010）は、その懷徳堂記念会創立百周年の節目の年に当たります。そこで、この展覧会では、江戸時代の懷徳堂の創設から近現代における活動まで、約300年にわたる懷徳堂の歴史を振り返ります。また、貴重資料の劣化をいかに食い止め、修復するかという試みや、最先端のデジタルアーカイブの成果などもご紹介します。



懷徳堂学舎

コンピューターグラフィクスで再現した江戸時代の懷徳堂



なかい ちくざん

中井竹山肖像画（大阪大学懷徳堂文庫蔵）

懷徳堂第四代学主中井竹山晩年の姿

1 草創期の懷徳堂

享保9年（1724）、大坂の五人の有力町人は、三宅石庵^{みやけせきあん}を学主に迎え、懷徳堂を創設した。彼らはみずから出資して懷徳堂の運営に当たり、町人のための学校を設立したのである。二年後の享保11年には、江戸幕府から公認され、「大坂学問所」となるが、町人たちの実質的運営は続き、いわば半官半民という異色の学校であった。

初代学主三宅石庵のほか、中井甕庵^{なか いしゅうあん}（後に懷徳堂の黄金期を築く中井竹山・履軒兄弟の父）や五井蘭洲^{ご いらんしゅう}、三宅春楼^{しゅんろう}（石庵の子）などが活躍し、懷徳堂の草創期を確立した。



三宅石庵「懷徳堂」幅（大阪大学懷徳堂文庫蔵）

懷徳堂初代学主三宅石庵の書。堂名は、『論語』の「君子は徳を懷^{おも}う」によるとされる。

2 懷徳堂の展開と終焉

中井竹山・履軒の兄弟によって懷徳堂は黄金期を迎えた。一時は江戸の昌平坂学問所に匹敵する勢いを誇り、関西に立ち寄る文人は必ず懷徳堂を訪れたという。

竹山は懷徳堂学主として活躍し、時の老中松平定信とも会見した。また、弟の履軒も、儒教經典に対する膨大な研究を蓄積したほか、自然科学の分野においても先進的な成果を残した。門下からは、富永仲基、山片蟠桃、草間直方などの近代的英知が輩出している。

しかし、幕末の動乱により、懷徳堂は終焉を迎える。百四十四年の歴史は、明治新政府の成立とともに閉じられることとなった。



さくらじょう
『左九羅帖』（大阪大学懷徳堂文庫蔵）



同左

中井履軒の本草書。動植物とその名称をわかりやすく解説している。

3 よみがえる懷徳堂資料

二百年以上を経過した貴重資料の数々。それらは、近年、急速な劣化が危ぶまれる状態となっている。

そこで、これらの資料を修復し、これ以上の劣化が進まないように処理を施したり、本来の色彩や形状を復元したりする努力が重ねられてきた。

このコーナーでは、そうした修復の成果を公開する。修復前の画像も掲示して、どのような深刻な劣化が見られたのか、それをどのように修復したのか、を明らかにする。



聖賢扇（大阪大学懷徳堂文庫蔵）

成立から200年の時を経て深刻な断裂が見られたが、見事に修復された。

4 懷徳堂の復興と現在

明治2年（1869）に閉校した懷徳堂。だがそれから40年の後、懷徳堂の復興を求める運動がわき起こった。明治43年（1910）、懷徳堂記念会が設立され、大正5年（1916）、ついに懷徳堂は再建された。これを重建懷徳堂と呼ぶ。重建懷徳堂は大阪の市民大学・文化大学として貢献したが、昭和20年（1945）の大阪大空襲により焼失した。

戦後、その貴重資料と精神を受け継いだ大阪大学は、懷徳堂記念会とともに、懷徳堂の顕彰運動を力強く展開している。



重建懷徳堂写真（懷徳堂記念会蔵）

玄関に並んだ関係者・受講生。

●主な展示資料

作 品 名	員数	年 代
万年先生論孟首章講義	1冊	享保11年(1726)(三宅石庵)
宝暦八年定	1通	宝暦8年(1758)(中井竹山)
論語雕題	2冊	江戸時代後期(中井履軒)
解師伐袁図	1幅	江戸時代後期(中井履軒)
越俎弄筆	1冊	安永2年(1773)(中井履軒)
木製天図	1面	江戸時代後期(中井履軒)
入徳門聯	1聯	江戸時代後期(中井竹山)
帰馬放牛図	2幅	寛政8年(1796)(谷文晁)
宋六君子図	6幅	寛政9年(1797)(蔭関月、中井藍江、頼春水)
騎馬武者図	1幅	寛政11年(1799)(中井藍江、中井蕉園)
懷徳堂印存	3冊	昭和15年(1940)
重建懷徳堂復元模型	1個	平成17年(2005)

●関 連 行 事

資料解説講演会(懷徳堂アーカイブ講座)

【開催日時】11月3日(水・祝) 午後1時30分～2時30分

講師：湯浅 邦弘(大阪大学教授)

11月28日(日) 午後1時30分～2時30分

講師：矢羽野隆男(四天王寺大学教授)

【会 場】大阪歴史博物館4階講堂

【参 加 費】無料

【参加方法】当日直接会場へお越し下さい。
(午後1時より受付、先着250名)

【主 催】大阪大学・大阪歴史博物館・財団法人懷徳堂記念会

懷徳堂シンポジウム

総合探求：21世紀市民の「学びのかたち」

—懷徳堂記念会のこれまでの100年とこれからの100年—

【開催日時】11月27日(土) 午後1時～午後5時(正午12時より受付)

【会 場】NHK大阪ホール

【主 催】財団法人懷徳堂記念会、大阪大学、NHK大阪放送局



騎馬武者図(大阪大学懷徳堂文庫蔵)

源義家(1039～1106)の故事を題材に中井藍江(らんこう)が絵を描き、中井蕉園(しょうえん)(中井竹山の子)が画賛をつけたもの。

懷徳堂記念会創立100周年記念 特集展示 懷徳堂展 —大阪“知”の源流—

【会 期】平成22年10月27日(水)～平成22年12月20日(月)

【開館時間】午前9時30分～午後5時まで(金曜日は午後8時まで)
※入館は閉館の30分前まで

【会 場】大阪歴史博物館 8階特集展示室(常設展示場内)

【休 館 日】毎週火曜日(ただし、11月23日(火・祝)は開館、11月24日(水)は休館)

【観 覧 料】常設展示観覧料でご覧になれます
大人600円(540円) 高大生400円(360円)
※()内は20名以上の団体割引料金

中学生以下・大阪市内在住の65歳以上の方(要証明書提示)、
障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料

【主 催】大阪大学・大阪歴史博物館・財団法人懷徳堂記念会

担当：湯浅邦弘(大阪大学教授)・井上智勝(大阪歴史博物館)



大阪歴史博物館

Osaka Museum of History

TEL:06-6946-5728 FAX:06-6946-2662

http://www.mus-his.city.osaka.jp/

◎地下鉄谷町線・中央線
「谷町四丁目」駅9号出口前
◎大阪市営バス
「馬場町」バス停前

